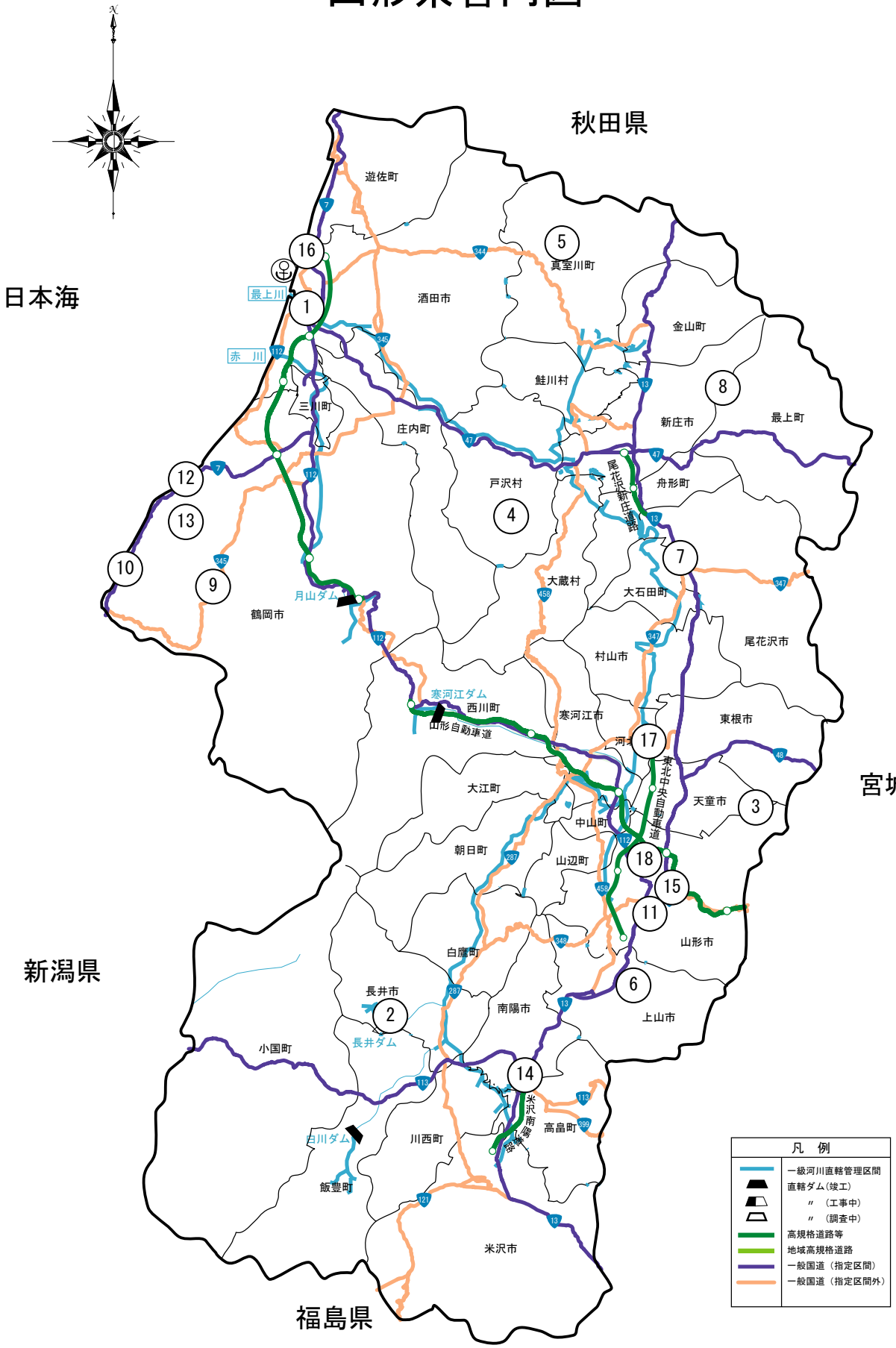
５．山　形　県

山形県管内図



※各番号に対応した事業内容等については次ページ一覧参照

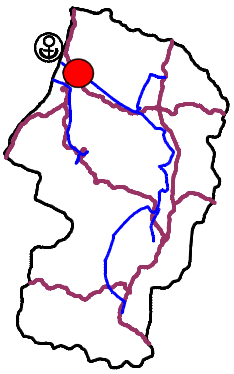
【山形県】

No	区分		事業名（市町村名）	整備内容	事業規模	頁
1	河川	直轄	最上川下流坂野辺地区直轄河川改修事業 （酒田市）	継続	出羽大橋架替　本格着手	89
2	河川	直轄	長井ダム建設事業 （長井市）	継続	重力式コンクリートダム 総貯水容量　51,000千m3	90
3	河川	補助	留山川生活貯水池建設事業 （天童市）	継続	重力式コンクリートダム 総貯水容量　1,120千m3	91
4	河川	直轄	最上川水系直轄砂防事業 鹿の入沢第4砂防えん堤 （最上郡戸沢村）	完成	重力式コンクリートスリット H=20.0m、L=103.5m	92
5	河川	直轄	最上川水系直轄砂防事業 万助川砂防えん堤 （最上郡真室川町）	完成	重力式コンクリートスリット H=11.5m、L=52.0m	93
6	河川	補助	蔵王川 火山砂防事業 （上山市）	継続	えん堤工　2基、床固工　40基 護岸工　3,620m	94
7	河川	直轄	最上川中流岩ヶ袋地区消流雪用水導入事業 （北村山郡大石田町）	継続	取水施設　1基 導水路L=200m	95
8	河川	補助	最上白川消流雪用水導入事業 （最上郡最上町）	完成	導水路工　L=440m	96
9	道路	補助	一般国道345号 雪寒道路事業 温海川工区 （鶴岡市）	完成	雪崩予防柵　L=40m	97
10	道路	直轄	一般国道7号 温海地区防災（堅苔沢地区局部改良） （鶴岡市）	完成	局部改良　L=1.4km	98
11	道路	直轄	一般国道112号 飯田西交差点改良 （山形市）	継続	右折レーンの設置、歩道拡幅	99
12	道路	直轄	一般国道7号 小波渡自転車歩行者道整備事業 （鶴岡市）	完成	歩道整備　L=500m 内、鯵ヶ崎トンネル拡幅　L=316m	100
13	道路	直轄	日本海沿岸東北自動車道 温海～鶴岡（新直轄） （鶴岡市）	継続	暫定2車線　L=26.0km	101
14	道路	直轄	新潟山形南部連絡道路 一般国道113号 赤湯バイパス （南陽市～東置賜郡高畠町）	全線供用	暫定2車線　L=4.0km	102
15	都市住宅	補助	山形市公共下水道事業 （山形市）	継続	新世代下水道支援事業（都市水環境整備事業）：せせらぎ水路等　1式	103
16	港湾	交付金	みなと振興交付金「酒田港 歴史と文化のみなとオアシスづくり支援事業」 （酒田市）	継続	歩道 L=1.500m、案内板	104
17	都市住宅	交付金	まちづくり交付金（谷地地区） （西村山郡河北町）	完成	公園、広場、親水水路、融雪溝、コミュニティ歩道、地域交流センター	105
18	都市住宅	補助	嶋土地区画整理事業 （山形市）	補助完了	A＝97.2ha	106

事業名	最上川下流坂野辺（さかのべ）地区直轄河川改修事業（直轄） （山形県酒田（さかた）市）
事業着手：昭和60年度	完成・供用の目標年度：平成24年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県

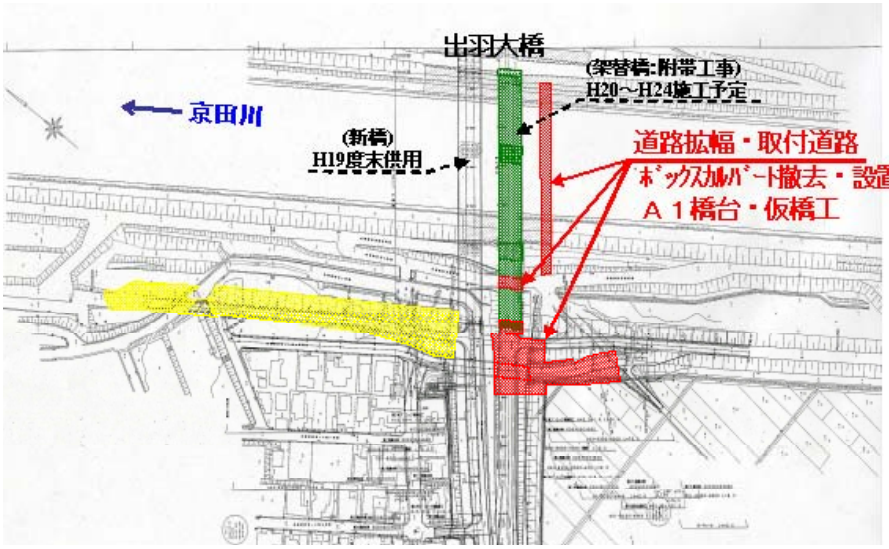


「事業の必要性」

京田川整備計画の目標流量である800m3/s（戦後最大の昭和46年7月洪水相当）を安全に流すため、引堤及び河道掘削により川幅を広げます。

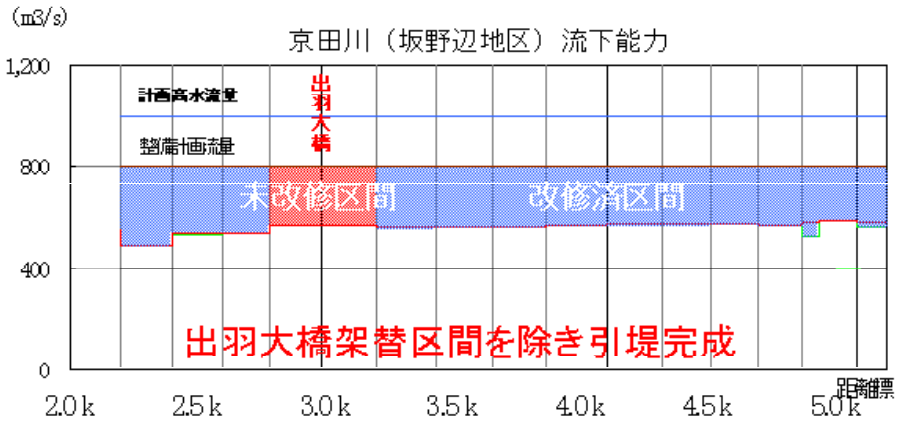
「事業の概要」

最上川下流において、京田川の洪水流下能力の向上を図るため、引堤及び河道掘削により川幅を広げます。山形県管理の国道112号出羽大橋の4車線化工事に伴う出羽大橋架替を推進します。



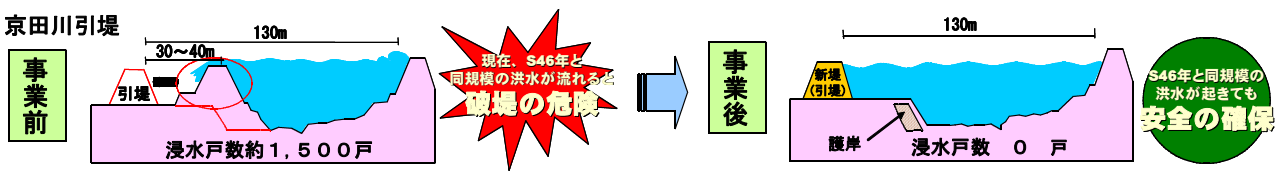


出羽大橋(4車線)完成ｲﾒｰｼﾞ





庄内空港方面より酒田市街地を望む（2車線のため、交通渋滞が発生）



平成20年度の予定

○山形県施工の国道112号出羽大橋の4車線化工事に伴う一部区間の築堤工事を実施し、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

○京田川整備計画の目標流量である800m3/sを安全に流下します。
○出羽大橋架替により4車線化を行うことにより交通渋滞を解消します。

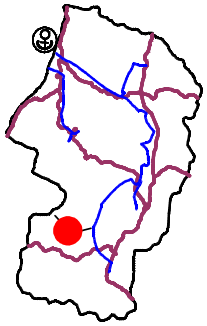
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	長井ダム建設事業（直轄） （山形県長井市）

事業着手：昭和59年度	完成・供用の目標年度：平成22年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

長井ダムは、最上川の左支川置賜野川の上流長井市平野・寺泉地内に建設中の多目的ダムです。

長井ダムは、最上川本川と置賜野川の洪水調節、既得用水の補給・河川環境の保全等流水の正常な機能の維持、かんがい用水の供給、水道用水の供給、発電の5つの役割を担います。

「事業の概要」

○ダム諸元
- 総貯水容量：5,100万m³　・高さ：125.5m　・堤頂長：381.0m
- 堤体積：120万m³　・ダム型式：重力式コンクリートダム

○これまでの事業経緯
- 平成14年度～　堤体コンクリート打設
- 平成18年11月　コンクリート打設終了

○総事業費：1,600億円、完成工期：平成22年度
（平成14年11月12日：基本計画変更告示）

長井ダム堤体の状況　＜下流から＞

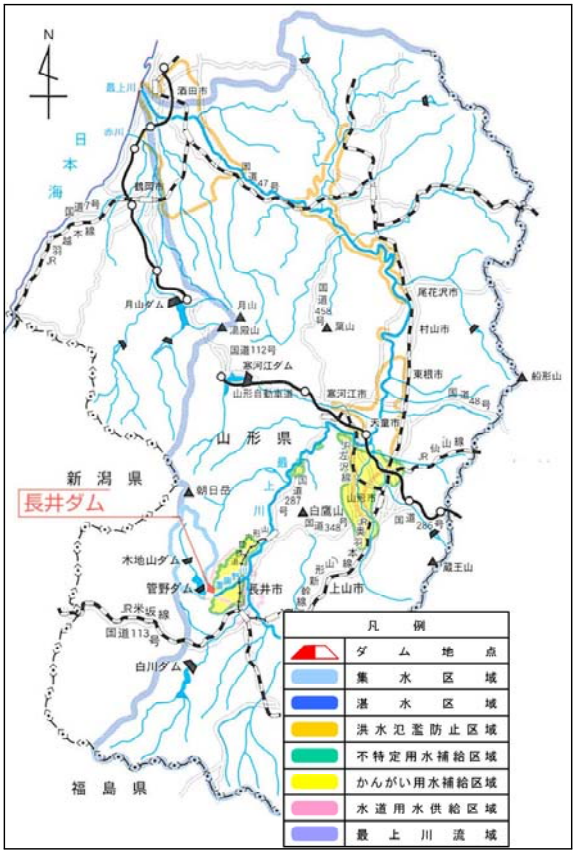


（平成19年5月撮影）

平成14年7月台風出水状況（最上川：白鷹町）



位置図及び計画概要図



平成20年度の予定

○管理用設備新設工事及び付替県道工事を実施し、事業の進捗を図ります。

事業効果

○ダム地点における洪水量（計画高水流量）1,000m³/sのうち780m³/sをダムに貯め、220m³/sを下流に放流する洪水調節を行うことにより、関連事業の整備と併せて最上川本川及び支川置賜野川の洪水被害の軽減を図ります。

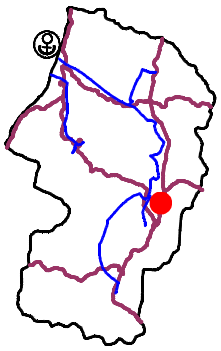
○長井市への水道用水の供給をはじめとする各種用水の安定的な確保を図るとともに、渇水被害の軽減を図ります。

事業名	留山川（とめやまがわ）生活貯水池建設事業（補助：事業主体　山形県） （山形県天童（てんどう）市）

事業着手：平成5年度	完成・供用の目標年度：平成22年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

留山川生活貯水池は、最上川水系押切川（おしきりがわ）の支川留山川に建設中の、洪水調節、流水の正常な機能の維持を目的とした多目的ダムです。

押切川沿川では、過去に洪水被害や渇水による農作物の被害が発生しています。

留山川生活貯水池によって、洪水被害や渇水を防ぐことで、安全で安心できる地域づくりを支援します。

「事業の概要」

全体計画

ダム形式	：	重力式コンクリートダム
ダム高	：	46.0 m
堤頂長	：	115.0 m
堤体積	：	6.5 万m3
総貯水容量	：	112.0 万m3

進捗状況

平成17年度	本体工事着手（堤体基礎掘削開始）
平成19年度	付替林道開通

留山川ダム（平成17年10月撮影）



平成11年8月出水状況（上山口地区）



平成20年度の予定

○平成20年度は基礎掘削工事を完了させ、本体コンクリート打設を開始します。

事　業　効　果

○洪水の際、ダムに流入する95m^3/秒のうち75m^3/秒をダムに貯めて押切川沿川地域の水害を防ぎます。
○既得用水の補給を行う等、流水の正常な機能の維持を図ります。

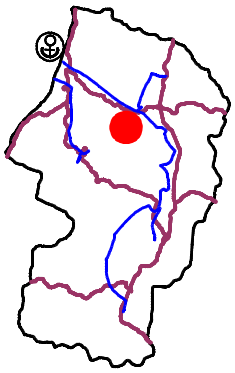
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	最上川水系直轄砂防事業　鹿の入沢第４砂防えん堤（直轄） （山形県最上郡戸沢村）

事業着手：平成１３年度	完成・供用の目標年度：平成２０年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

鹿の入沢の上流域は脆弱な地質で、山腹崩壊や渓岸浸食が著しい重荒廃地域となっています。最近では平成6年に大規模な地すべり地性崩壊が発生し、大量の土砂が堆積している状況にあります。流域全体の土砂整備率の向上に加え、大規模土砂流出に対し、下流域の安全を確保するため、早期の対策が必要です。

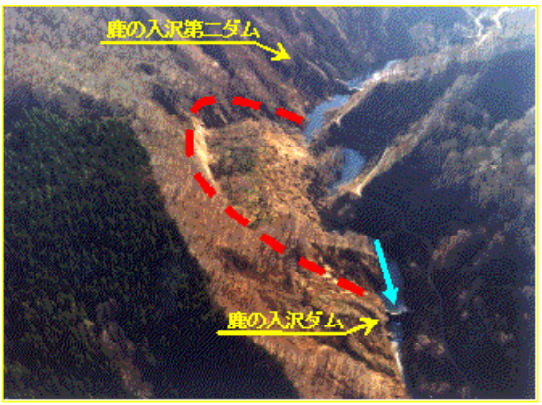
「事業の概要」

・構造：重力式コンクリートスリットえん堤
・えん堤高、えん堤長：h=20.0m、L=103.5m
・土砂整備効果量：約１４万m3

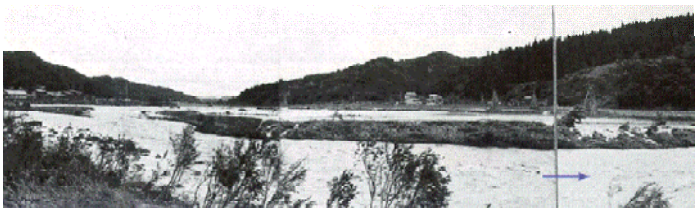




○完成イメージ図



○平成6年地すべり崩壊状況



○昭和51年災害状況（角川地区）



○昭和44年災害状況（角川地区）

平成２０年度の予定

○平成20年度は、引き続きえん堤工事を実施し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

○土砂災害から下流集落及び国道47号を保全します。

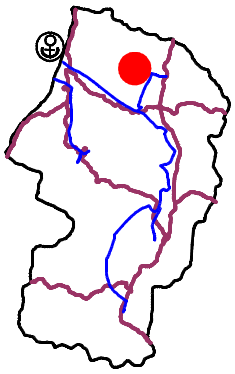
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	最上川水系直轄砂防事業　万助川砂防えん堤（直轄） （山形県最上郡真室川町）

事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

万助川は、下流に民家や町道等の保全施設を有していることから、突発的な大規模土砂流出に対し、下流域の安全を確保するため、早期に土砂災害の安全度を向上させる必要があります。

昭和50年8月の記録的な災害を契機に再度災害防止のために、順次施設整備を進めています。

「事業の概要」

○構造：重力式コンクリートスリットえん堤
　えん堤高・延長：h=11.5m、L=52.0m
　土砂整備効果量：約7万m3





○万助川上流崩壊地状況（H16.7発生）



○えん堤完成イメージ図



○昭和50年被災状況（小又川合流点）

平成20年度の予定

○平成20年度は、引き続きえん堤工事を実施し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

○土砂災害から下流民家及び町道を保全します。

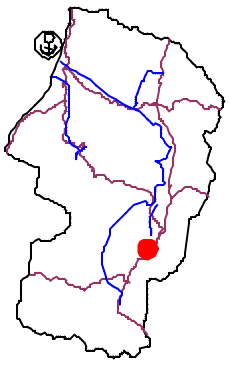
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	蔵王川（ざおうかわ）火山砂防事業（補助：事業主体　山形県） （山形県上山（かみのやま）市）

事業着手：平成10年度	完成・供用の目標年度：平成25年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



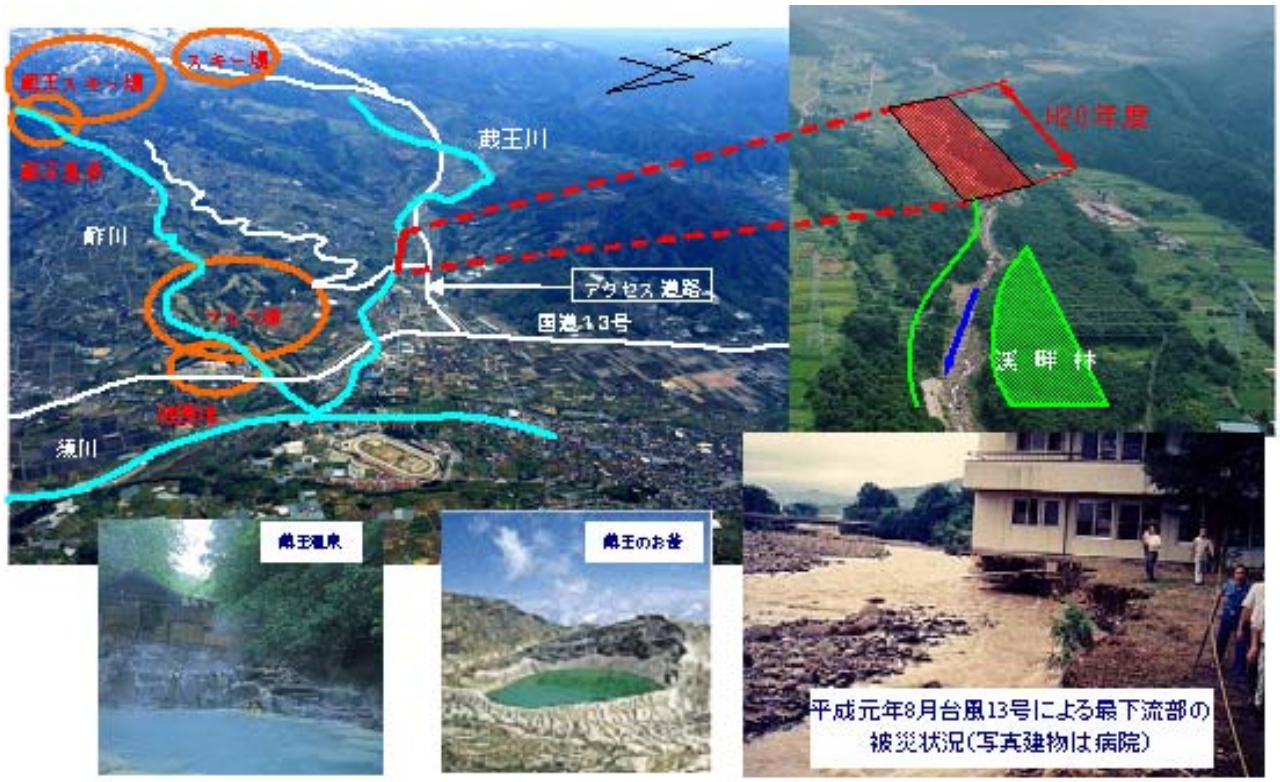
「事業の必要性」

本川は、蔵王山を水源として仙人沢・硫黄倉沢川と合流し蔵王川となる河川です。上流部は蛇行が甚だしく縦横浸食が進み、下流部では不安定土砂の堆積が顕著となっています。

また、蔵王地域は蔵王スキー場を中心に数多くの観光スポットがあり、年間160万人の観光客が訪れるリゾート地であるため、土砂災害発生の際には人命、経済、観光に甚大な被害が発生する恐れがあります。平成元年には集中豪雨により災害が発生しており、今後も大規模な土砂災害の発生が予想されるため、渓流保全工等により河道の安定を図り、土砂災害を未然に防止するものです。

「事業の概要」

土砂災害を未然に防止するため、砂防えん堤工、床固工群、渓流保全工、渓畔林等を整備します。



平成20年度の予定

○平成20年度は、砂防えん堤、床固工を実施し、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

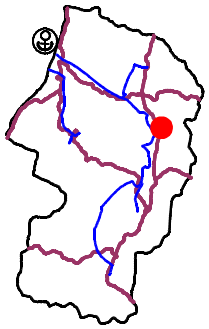
○事業実施により、人家278戸、学校、公民館3棟、県道L=8.3km、橋梁7基、耕地53ha等の土砂災害防止を図ります。

事業名	岩ヶ袋地区　消流雪用水導入事業（直轄） （山形県北村山郡大石田町）

事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成22年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県

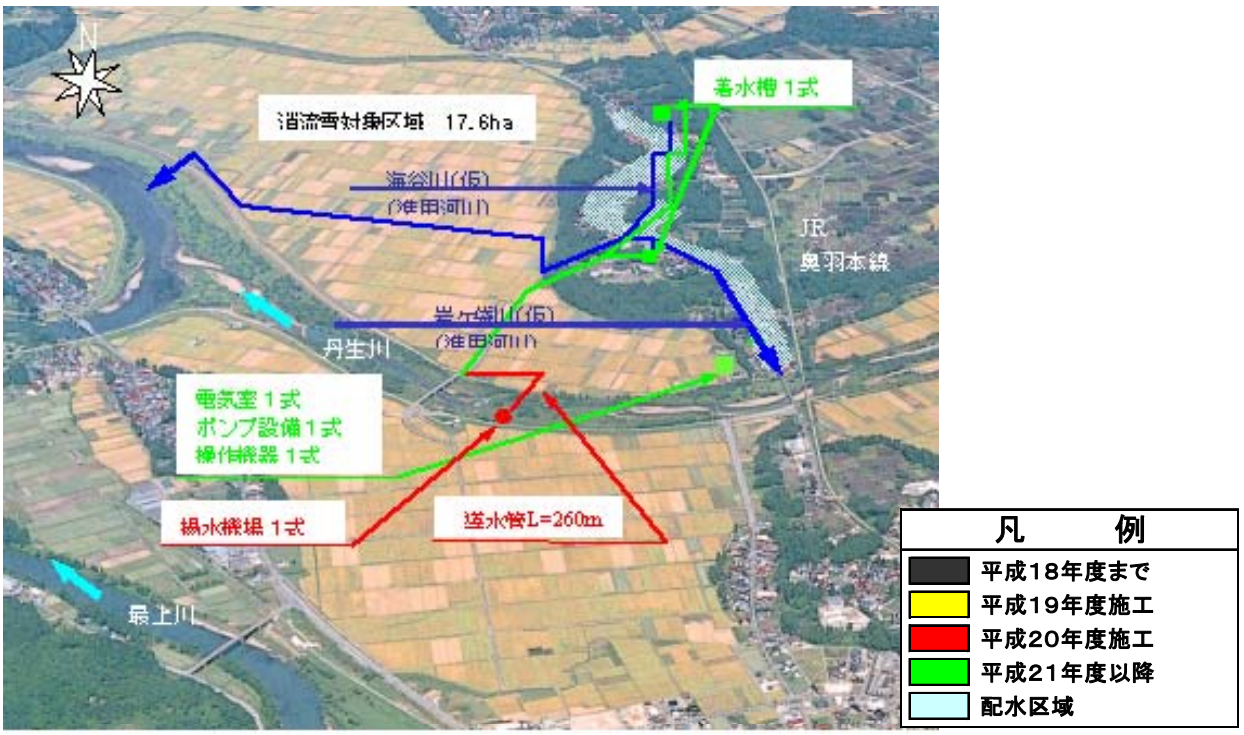


「事業の必要性」

大石田町は平成17年には最大積雪深が263cmを記録するなど、日本でも有数の豪雪地帯となっています。雪に閉ざされる期間が5ヶ月を数え、近年の交通体系から雪処理に苦慮しており、冬期間の生活が阻害されることが過疎化の大きな要因となっています。除雪作業を効率的かつ効果的に行うために消流雪用水の確保が求められています。

「事業の概要」

岩ヶ袋地区を流れる市街地部の河川に消流雪用水を導入するため、取水施設、導水路等の整備を行います。









平成20年度の予定

○平成20年度は、揚水機場、導水管の整備を行い、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

○消流雪用水を確保することで、冬期間環境改善が図られます。
○除雪作業を効率的かつ効果的に行うとともに、道路交通安全の確保が図られます。

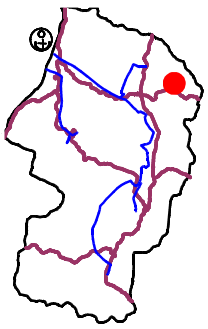
安全で安心できる地域づくり　雪に強く安全で快適な地域づくり

事業名	最上白川消流雪用水導入事業（補助：事業主体　山形県） （山形県最上郡最上町）

事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

最上町は山形県の北東部に位置し、最大積雪深が205cm（平成18年）に達する県内でも有数な豪雪地帯であり、昭和46年には豪雪地帯特別措置法に基づき特別豪雪地帯の指定を受けています。

人口及び高齢化の状況は、10，762人（H17国調）、29．1％と過疎及び高齢化が進んでおり、住民の除雪作業は非常に厳しい状況となっております。

さらに、大堀保育所及び大堀小学校を流れる一級河川郡垂川の冬期間流量の減少により、雪による河道の閉塞が発生し、付近の家屋の浸水被害が発生するなど住民の生活と通学の支障となっています。

「事業の概要」

冬期間でも水量の豊富な一級河川最上白川から消流雪用水を導水し、一級河川郡垂川の河道閉塞を防ぐとともに、関連する大堀地区の流雪溝への水を供給することで、住民の除排雪作業を支援します。

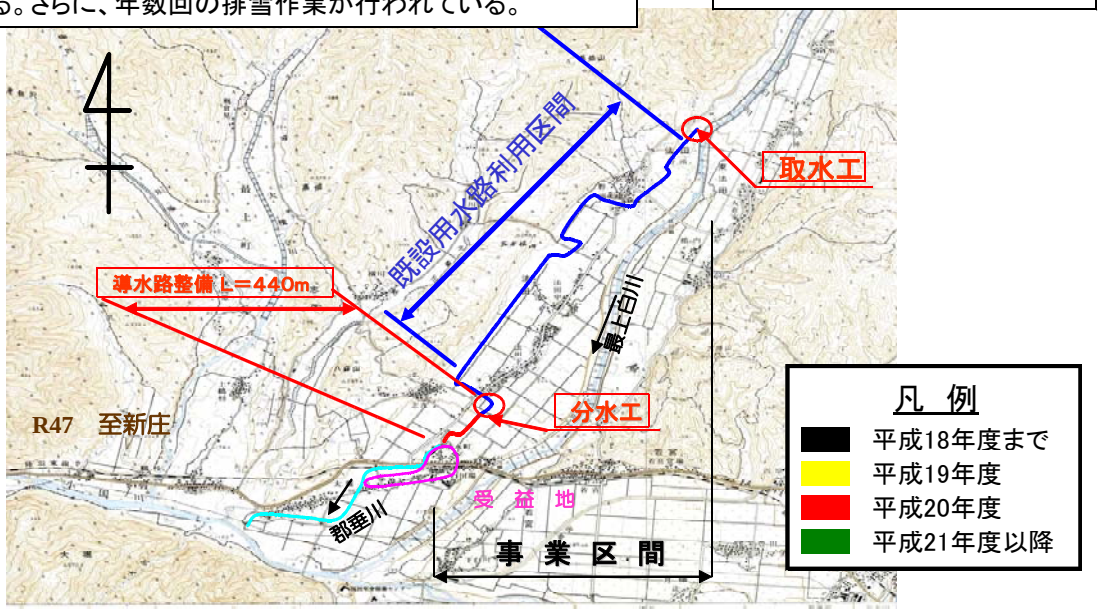




消流雪用水が不足しているため除雪作業に多大な労力が必要となっている。さらに、年数回の排雪作業が行われている。



雪による河川の閉塞状況。



平成20年度の予定

○平成20年度は、導水路工、取水口改築、分水工を実施し、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

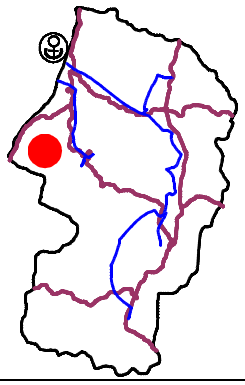
○雪による河道閉塞による浸水被害が解消されます。西部地区の流雪溝に十分な用水を確保することで、地区住民の快適で安全な生活の確保及び安全な通学路確保が図られます。

安全で安心できる地域づくり　雪に強く安全で快適な地域づくり

事業名	一般国道345号　雪寒道路事業　温海川（あつみがわ）工区（補助：事業主体　山形県） （山形県鶴岡（つるおか）市温海川）
事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

一般国道345号は新潟県と山形県を結ぶ重要な幹線道路ですが、当該地区は例年、雪崩の発生により円滑な交通や地域住民の生活に支障を来しており、早急な対策が必要となっております。

「事業の概要」

雪崩対策工として雪崩予防柵（85m）を設置することにより、大雪等における雪崩災害等を防止し、地域間を結ぶ重要な幹線道路として、安全な通行の確保を図ります。

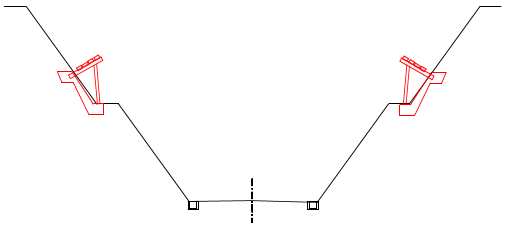




▲雪崩発生状況



▲位置図



▲対策内容



▲雪崩予防柵完成イメージ

平成20年度の予定

○平成20年度は、雪崩予防柵L=40mを設置し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

○防災点検による要対策箇所の対策が完了し、大雪等による雪崩災害を防止します。
○地域間を結ぶ重要な幹線道路として、冬季間の安全な通行を確保します。

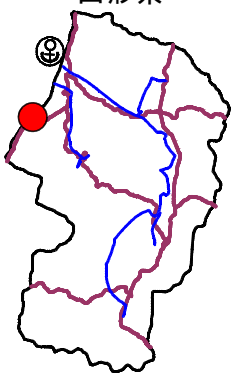
安全で安心できる地域づくり　日常生活における安全・安心対策の強化

事業名	一般国道7号　温海地区防災「堅苔沢（かたのりざわ）地区局部改良」（直轄） （山形県鶴岡市）

事業着手：平成17年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

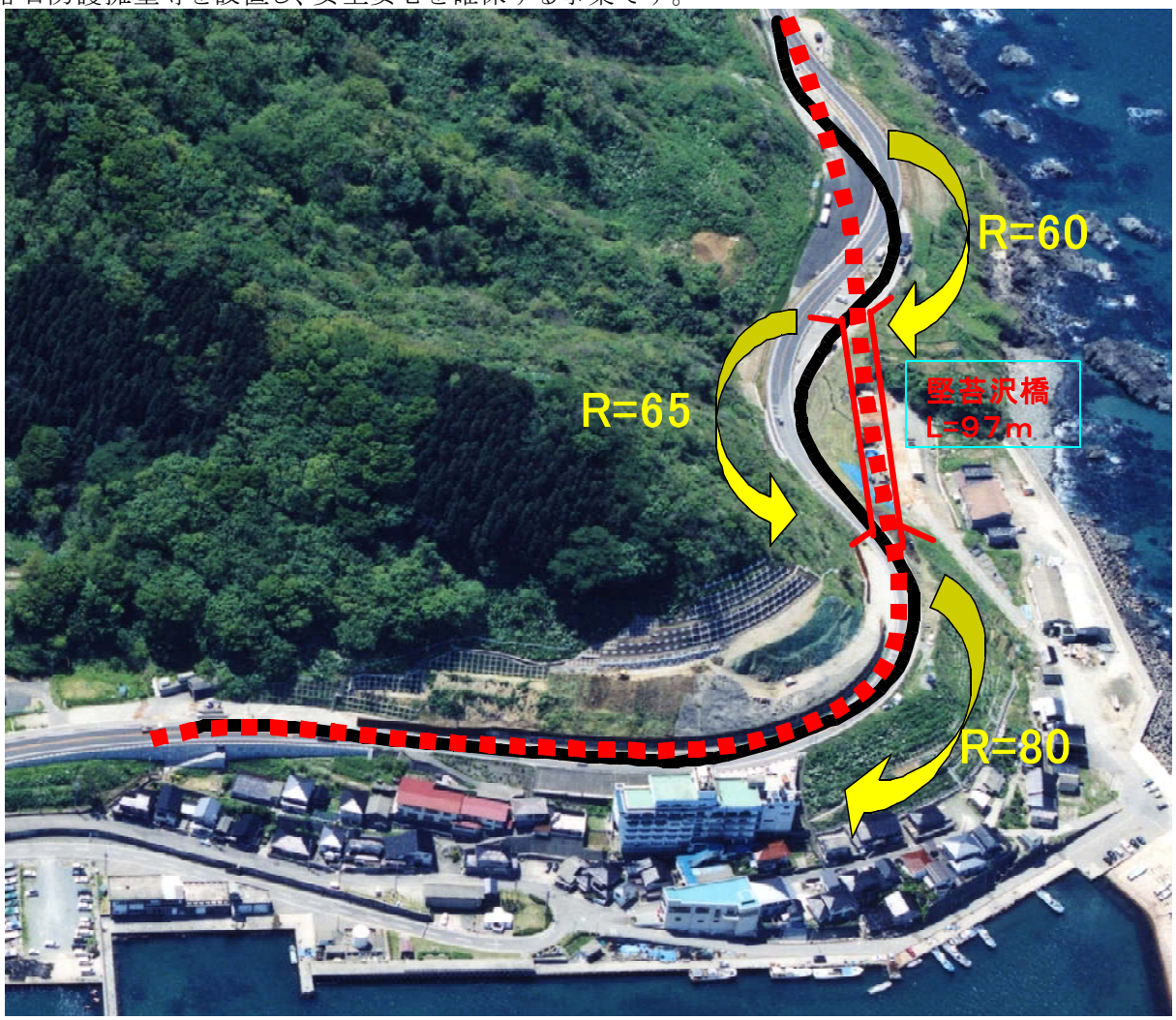
山形県鶴岡市沿岸部の一般国道7号は、急峻な山地と日本海に挟まれた狭い地形を通過しており、地質的に脆弱なことから、幾度となく土砂崩落が発生している区間です。

また、一度通行規制が行われると広域的な迂回が必要となることから、鶴岡市沿岸部の地域住民にとって、期待されている事業です。

特に、堅苔沢地区については土石流や落石崩落などの危険性があることから、抜本的な防災対策が必要な区間となっています。

「事業の概要」

温海地区防災における堅苔沢局部改良は、最小曲線半径R60mの線形不良改良であり、日本海側に新たな橋梁（堅苔沢橋L＝97m）を設置することで線形不良を回避するとともに、防災対策として法面保護や落石防護擁壁等を設置し、安全安心を確保する事業です。



平成20年度の予定

○法面保護工及び舗装工事を実施し、堅苔沢地区の局部改良の完成を図る予定です。

事　業　効　果

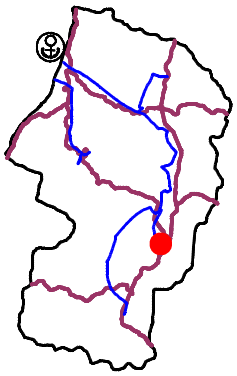
○防災危険箇所の対策推進により、安全安心が確保されます。
○道路線形改良による交通事故が減少します。

安全で安心できる地域づくり　日常生活における安全・安心対策の強化

事業名	一般国道112号　飯田西（いいだにし）交差点改良（直轄） （山形県山形市）
事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成23年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



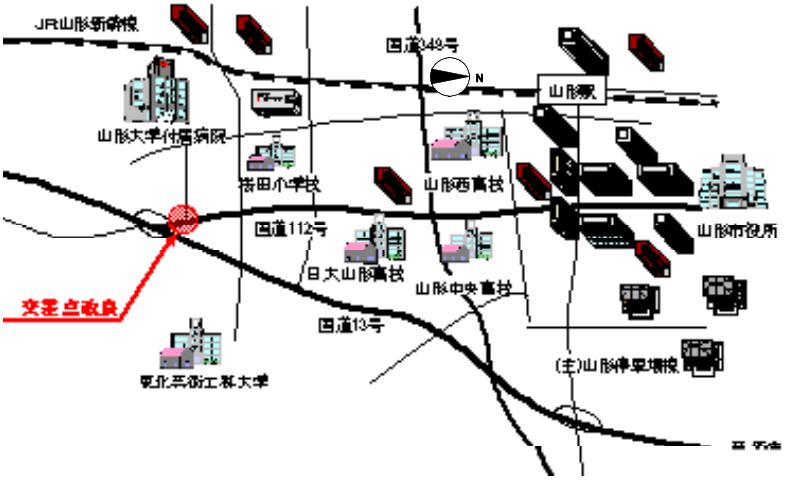
「事業の必要性」

当該箇所は山形県山形市の中央に位置し、市道と交差する2車線のT字交差点で、出会い頭や追突事故が多く発生しています。

また、国道112号から市道に右折する車両により直進車が阻害され、特に朝の通勤時間帯において渋滞が発生しているうえ、市道の先にある大学病院へ向かう救急車両の妨げともなっています。

「事業の概要」

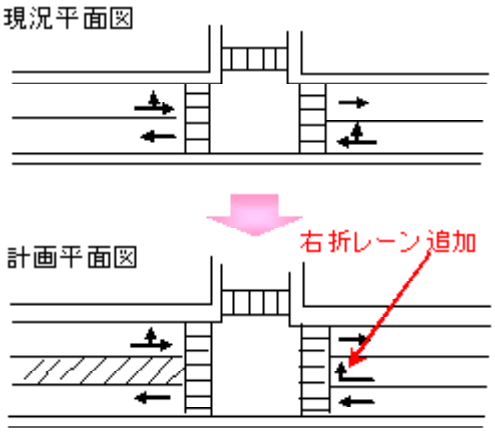
当該交差点の交通事故の防止と交通円滑化を図るために、国道112号の上り線に右折車線を整備し、交差点の改良を行うものです。



【 位置図 】



【 現況写真 】



【 平面図 】

平成20年度の予定

○用地買収を推進し、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

○安全で円滑な交通を確保し、死傷事故の削減及び渋滞の緩和を図ります。

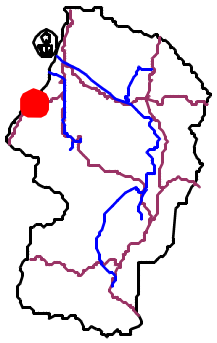
安全で安心できる地域づくり　日常生活における安全・安心対策の強化

事業名	一般国道7号　小波渡（こばと）自転車歩行者道整備事業（直轄） （山形県鶴岡（つるおか）市）

事業着手：平成15年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県

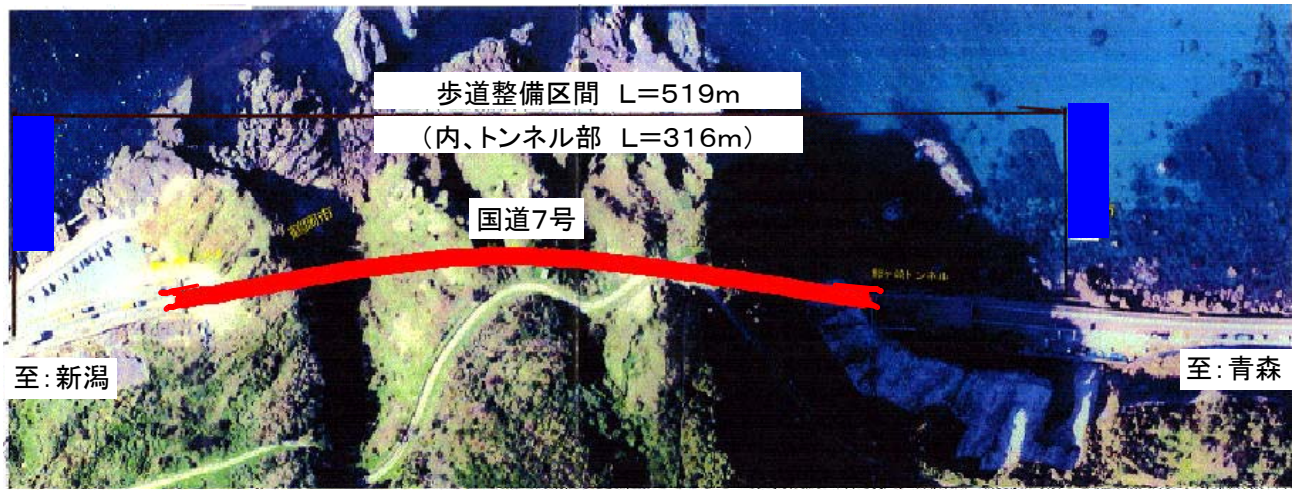


「事業の必要性」

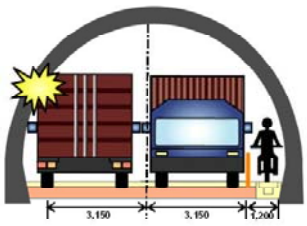
当該箇所は、豊浦中学校及び三瀬小学校の通学路となっており、鯵ヶ崎トンネル内の歩道を利用していますが、トンネル内歩道は1．2mと狭小で、歩行者同士のすれ違いも困難な状況にあります。

「事業の概要」

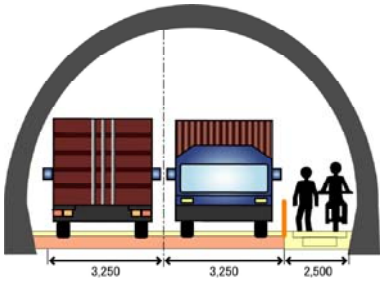
トンネル内の歩道拡幅を行い、安全安心に通行可能な歩行空間の確保を図るものです。



▼現況横断図



▼計画横断図



▼現況写真





（荘内日報：H2.9.5）

平成20年度の予定

○トンネル本体工事を推進し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

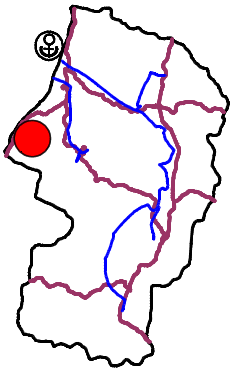
○通学路指定区間における安全・安心・快適な歩行空間を確保します。

強い東北の創造　地域間の交流・連携の強化、広域的な生活圏の形成

事業名	日本海沿岸東北自動車道　温海（あつみ）～鶴岡（つるおか）（新直轄） （山形県鶴岡市）
事業着手：平成9年度	完成・供用の目標年度：平成23年度全線暫定供用予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

一般国道7号の鶴岡市沿岸部は、冬期や低気圧通過時に発生する越波や山側の地質が脆弱なことから発生する土砂崩落による通行規制が幾度となく発生している区間です。また、一度、通行規制を行うと迂回路がないことから、広域的な迂回を強いられることになり、地域の交通や物流に大きな影響を与えています。

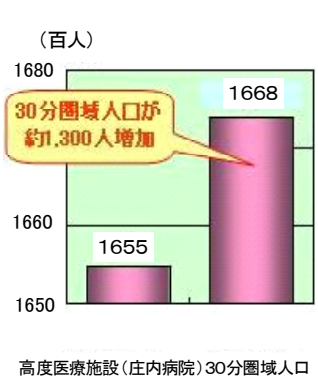
こうした問題の解消と日本海沿岸東北自動車道路のネットワークの一部として機能し、物流支援や交流圏拡大の観点から地域からも期待されている道路です。

「事業の概要」

日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）26kmは、旧温海町から鶴岡市街地を結び、通勤や通学などの地域間交通の時間短縮、庄内病院までの30分圏域人口の拡大、物流の支援、緊急時の代替路の確保などを目的として整備を進めています。



温海トンネル南坑口状況



高度医療施設（庄内病院）30分圏域人口



国道7号の越波状況

平成20年度の予定

○温海IC～鶴岡IC間（L＝26km）全線において、土工・トンネル工事・橋梁工事の推進を図る予定です。

事　業　効　果

○鶴岡市立庄内病院への30分圏域人口が約1，300人増加します。
○越波や災害時の津波などに対する災害時迂回路を確保します。
○国道7号の事前通行規制区間「堅苔沢」を回避します。

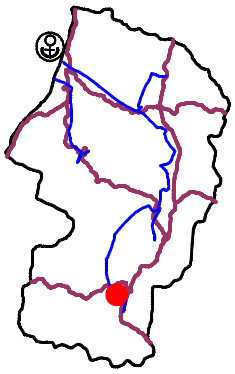
強い東北の創造　地域間の交流・連携の強化、広域的な生活圏の形成

事業名	新潟山形南部連絡道路　一般国道113号　赤湯（あかゆ）バイパス（直轄） （山形県南陽（なんよう）市～東置賜郡（ひがしおきたま）高畠（たかはた）町）

事業着手：平成7年度	完成・供用の目標年度：平成20年度全線暫定供用予定

事業の必要性・事業の概要

山形県

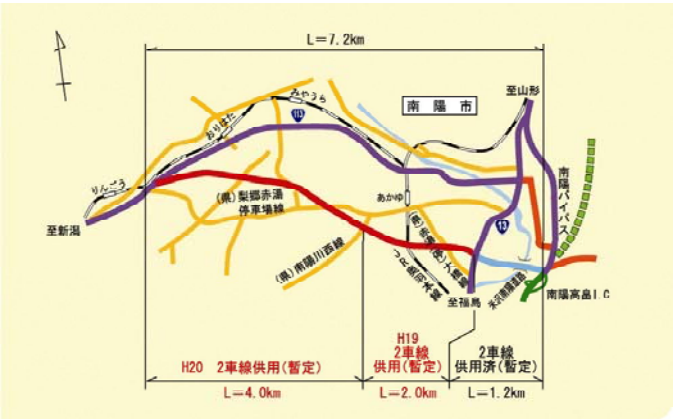


「事業の必要性」

国道113号南陽市赤湯の市街地区間は、幅員が狭く、直角曲がりが2箇所ある線形不良に加え、大型通行規制区間があるなど、幹線道路としてふさわしくない状況になっています。また、豪雪地帯にも関わらず堆雪余裕がなく、運搬排雪を余儀なくされ、歩道が確保されないなど、安全性の面からも問題が指摘されています。

「事業の概要」

赤湯バイパスは、劣悪な現道状況による交通混雑や旅行速度の低下を解消することを目的とした延長7.2kmの自動車専用道路です。南陽市大字鍋田～高畠町大字深沼間1.2kmについては、平成15年に暫定供用済み、残る6.0km区間について事業を行っています。

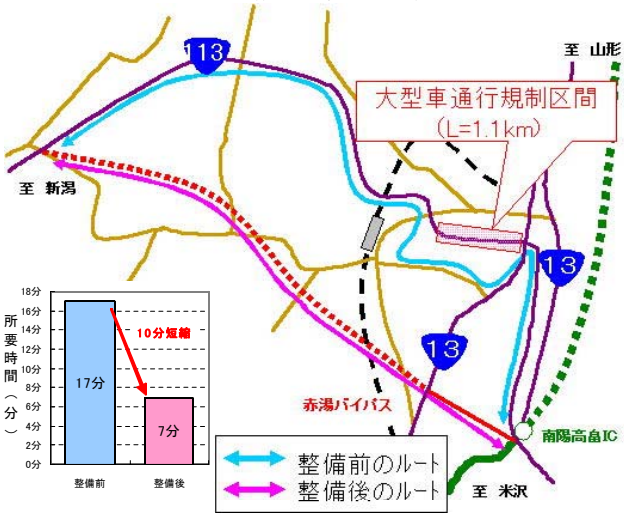




▲南陽市赤湯の混雑状況



▲整備が進む赤湯バイパス



▲大型車走行ルートと所要時間

平成20年度の予定

○南陽市大字竹原～南陽市大字島貫間L=4.0kmにおいて、土工・舗装工事を実施し、全線暫定供用を図る予定です。

事　業　効　果

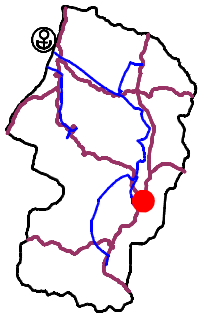
○大型車通行規制区間が回避されます。
○南陽市赤湯市街地の現道交通量が減少し、住民の安全と生活環境が改善されます。
○公立置賜総合病院へのアクセス向上（高畠町の5千人が30分圏内に）します。
○冬期走行環境の改善が図られます。

美しい東北の実現　自然環境との共生

事業名	新世代下水道支援事業〔都市水環境整備事業〕(補助:事業主体　山形市) (山形県山形市)
事業着手:平成19年度	完成・供用の目標年度:平成21年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

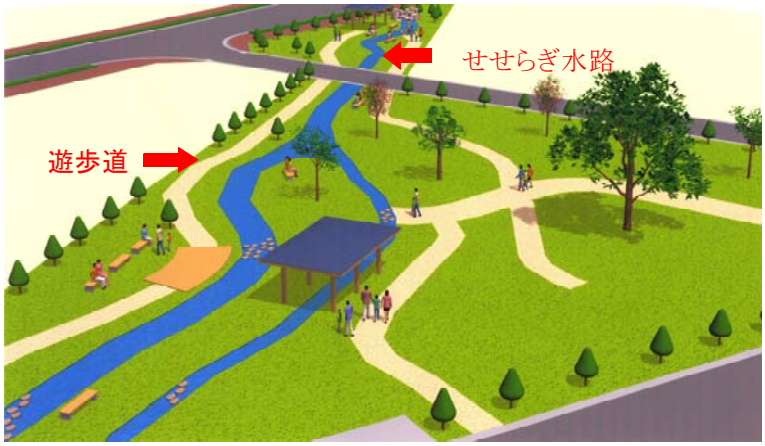
嶋(しま)土地区画整理事業地内を縦貫する嶋堰せせらぎは，山形市中心部を流下し古くから親しまれている山形五堰のひとつである宮町堰の下流に位置しています。当該事業では，「歴史文化とうるおいを感じる街」をキャッチフレーズに掲げ，水辺空間の整備を色濃く位置付けるとともに，緑豊かでゆとりある水環境を形成することを目標としています。

本事業の実施により，沿線住民はもとよりこの地区に訪れた人々にとって，心安らぎ，水と緑にたわむれる親水性ある，良好な水辺空間の創出が図られることが期待されます。

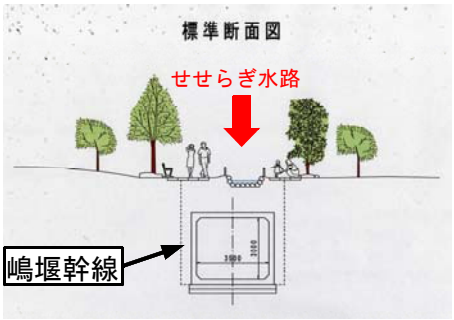
「事業の概要」

嶋(しま)土地区画整理事業地内の中央部を縦貫する嶋堰幹線に沿うように住宅地が近接配置し，居住する計画です。その嶋堰幹線の上部空間において，せせらぎ水路，植栽，遊歩道，その他付帯施設を設置し，親水空間の整備を行うものです。せせらぎ水路には、雨水を流すことでアメニティ創造の場として市民にアピールするものです。

嶋堰せせらぎ緑道整備事業イメージ図



断面イメージ



〔施設計画概要〕

- せせらぎ水路（親水空間整備 ）
- 雨水処理施設，送水施設，ポンプ施設
- 植栽，遊歩道，その他付帯施設

平成20年度の予定

○山形市が新世代下水道事業(都市水環境整備事業)として実施するせせらぎ水路、雨水処理施設等の整備を支援します。

事　業　効　果

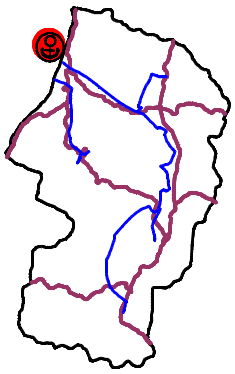
○水と緑にたわむれる親水性ある，良好な水辺空間の創出をおこなうことにより、沿線住民はもとよりこの地区に訪れた人々にとって，心安らぎを与える効果が期待できます。

美しい東北の実現　観光振興・交流拠点の整備

事業名	みなと振興交付金「酒田港　歴史と文化のみなとオアシスづくり支援事業」 （山形県酒田市）　（補助：事業主体　山形県、酒田市）
事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成23年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県

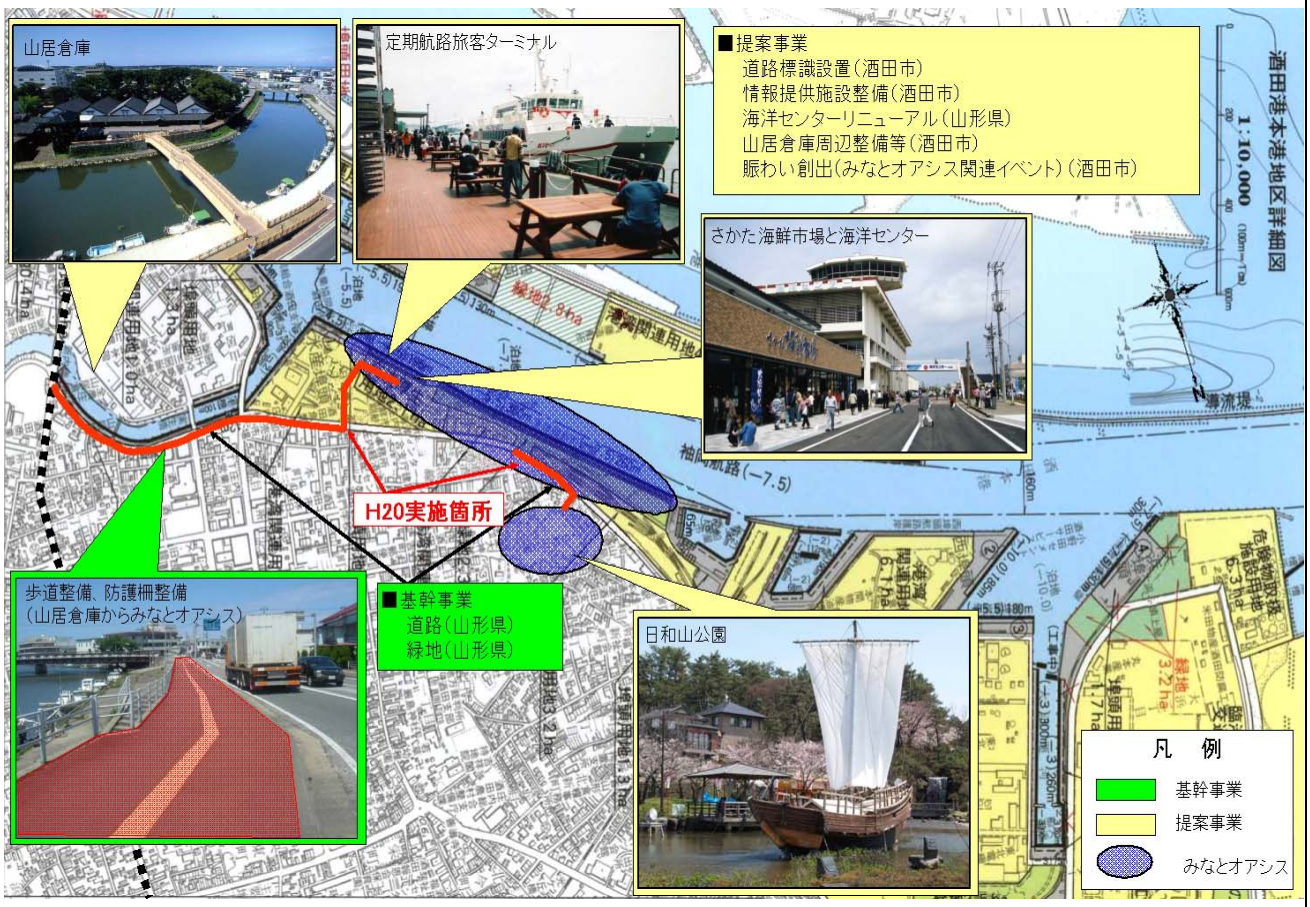


「事業の必要性」

日本有数の北前船文化発祥の地である酒田市は、酒田港本港地区周辺に当時の繁栄を今に伝える歴史・文化遺産が数多く残っており、地域づくりや観光に重要な役割を果たしています。しかし、本港地区とその周辺に点在する歴史・文化遺産、観光施設等の面的連携が弱いことや、「みなとオアシス」の認知度が低いこと等が課題となっています。このため、基幹事業の歩道整備や緑地整備、提案事業のみなとオアシス支援事業により、本港地区とその周辺に点在する歴史・文化遺産、観光施設等の連携・回遊性の強化等を図り、区域内の観光客の滞留を促進し、酒田市への観光増加と本港地区の賑わい空間の創出を図る必要があります。

「事業の概要」

本事業は、酒田港本港地区に点在する歴史・文化遺産や観光施設の連携・回遊性を強化し、歴史と文化を生かしたみなとまちづくりを行っていくため、拠点観光施設を結ぶ海沿いの散策ルートとなる歩道を整備する。また、案内標識等の設置や港に関する情報提供施設の整備、みなとの活性化を目的としたイベント等、海洋センターのリニューアル、山居倉庫周辺等の整備を実施します。



平成20年度の予定

○平成20年度は、臨港道路の歩道および案内板の整備を行い、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

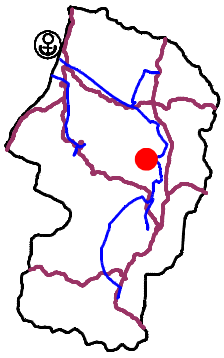
○歩道や案内板の整備することにより、地区内の観光客の滞留の促進、本港地区の賑わい空間の創出を図ることにより、住民や観光客が親しみやすいみなとづくりが促進されます。

美しい東北の実現　観光振興・交流拠点の整備

事業名	まちづくり交付金「谷地（やち）地区」（補助：事業主体　河北町） （山形県西村山郡（にしむらやまぐん）河北町（かほくちょう））
事業着手：平成16年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



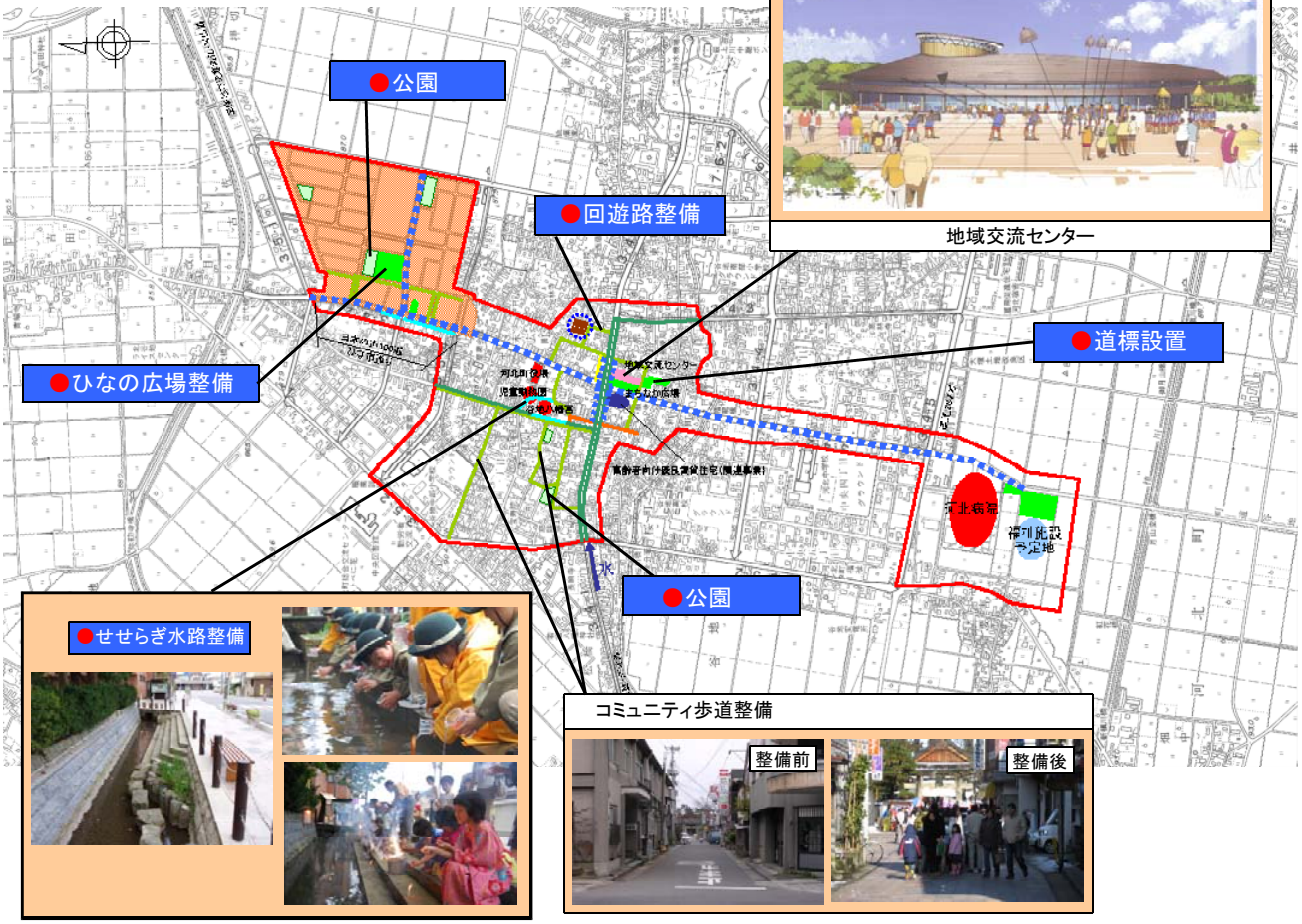
「事業の必要性」

谷地地区では、先人から受け継がれてきた「谷地ひな祭り」、「谷地どんが祭り」に見られる「雛文化」や「紅花文化」が今も町民の心のよりどころとなっています。特に町の中心部である谷地地区では、これら地域の歴史と個性豊かな文化を継承発展させ、町全体の活力の中心として、賑わいと交流の促進を図り笑顔があふれ、元気が湧き出るまちづくりが求められています。

「事業の概要」

子どもから高齢者まで多くの町民が集う場、町民と来訪者との交流の場として、地域交流センターとまちなか広場を整備します。また、かつて谷地城の堀に引水していたまちなかの川の流れを利用して、緑のある広場や水辺空間を創出し、特に冬になると家に引きこもりがちとなる住民と来訪者が四季を通して回遊して楽しめる中心市街地の高質空間形成を図ります。

凡例
平成20年度予定事業



平成20年度の予定

○平成20年度は、公園・広場・回遊路・せせらぎの整備と道標設置を行い、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

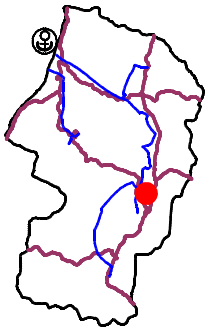
○地域交流センター等を整備することによって、中心市街地における賑わいの再生に寄与します。
○良好な居住環境を形成することによって、定住人口の拡大に寄与します。
○水・緑・歴史資源を活用した空間整備をすることによって、交流人口の拡大に寄与します。

魅力ある都市づくり　都市内交通の円滑化

事業名	嶋（しま）土地区画整理事業（補助：事業主体　山形市） （山形県山形市）
事業着手：平成10年度	完成・供用の目標年度：平成20年度補助完了予定

事業の必要性・事業の概要

山形県



「事業の必要性」

本地区は、山形市中心部から約2kmの北部に位置し、周辺地域の急激な市街化に伴うスプロール化が懸念されています。また、同地区は、山形都市圏の外環状道路に位置付けられた2本の4車線道路が計画されている地区であることから、都市圏道路ネットワークを活かした利便性の高い快適な居住環境整備が急務となっています。

「事業の概要」

土地区画整理事業として約97.2haの地内において、都市計画道路6路線及び地区公園等の公共施設整備を推進します。



整備前の嶋地区



都市圏道路ネットワークと利便性の高い快適な居住環境整備が着々と進む嶋地区



既に主要幹線の役割を十分果たしている4車幹線道路



順調に進む保留地処分状況及び建設が進む沿道商業店舗





平成20年度の予定

○事業完了に向け、出来形確認測量及び換地計画を行います。
（都市計画道路はH19供用）

事　業　効　果

○山形都市圏道路ネットワークにおける環状道路としての重要な位置付けである(都)上山山形西天童線及び(都)天童鮨洗線の整備による、都市内交通の円滑化(渋滞等都市内交通問題の緩和)が図られます。
○利便性の高い良好な居住環境、健全な市街地が形成されます。